

令和6年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	32 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
総合戦略		安全・安心な暮らしを守るとともに、デジタルの力を活用した魅力ある地域を構築する		
主管課	都市政策部 上下水道課	評価責任者	山風呂 敏	
		評価日	令和7年6月2日	
関連課		環境課		
目標		快適な生活環境のために浸水被害を防止する雨水対策を進めるとともに、生活排水処理の促進を図ります。また、既存の下水道施設については、適切な維持管理や老朽化した施設の更新を行います。		
施策目標の実現に向けた取組		(1) 雨水対策の推進及び排水施設の維持管理 ○川崎調整池関連事業を計画的に進めるとともに、既存施設の適正な維持管理を継続します。 (2) 生活排水処理の促進 ○市街化調整区域の公共下水道（汚水）に関する受益者負担金への理解を得ながら、下水道施設の整備を行います。 (3) 下水道事業の経営基盤の強化 ○今後の整備計画を踏まえて、下水道事業経営戦略を改定し、経営基盤の強化を図ります。		

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は後期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策指標	指標1	指標名	貯留浸透施設設置数（累計）【総合戦略】							
		説明	令和7年度の完成に向けて、川崎調整池築造工事を進めるとともに、既存施設の草刈りや浚渫などを実施し適正な維持管理を行った。							
		単位	箇所							
	成果	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値	54	55	55	55	55	55	55	
		実績値	54							
	指標2	指標名	汚水管渠整備延長（累計）							
		説明	市街化調整区域内の公共下水道（汚水）未整備地区については、大井・苗間、駒林、川崎地区において、公共下水道整備工事を実施し、次年度以降の発注に向けた工事実施設計業務委託を行った。							
		単位	k m							
	成果	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値	2.00	4.00	6.00	8.00	10.00	12.00	14.00	
		実績値	1.52							
	指標3	指標名	経費回収率							
		説明	汚水処理に係る費用が、どの程度使用料で賄えているかを示す指標のこと。令和6年度は113%となり、適切な使用料水準にある。							
		単位	%							
	成果	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上	
		実績値	113.03							
	指標4	指標名								
		説明								
		単位								
		年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値								
		実績値								
	指標5	指標名								
		説明								
		単位								
		年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値								
		実績値								

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
支出	事務事業費	3,775,157	0	0	0	0	0	0
	人件費	94,611	0	0	0	0	0	0
収入	特定財源	3,448,156	0	0	0	0	0	0
	一般財源	421,612	0	0	0	0	0	0

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は後期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	【総合戦略】 貯留浸透施設設置数	近年の降雨は集中豪雨化する傾向にあり、本市においても都市型浸水被害が発生していることから、被害の軽減に効果的な地域に、雨水流出抑制を目的とした調整池及び遊水池の整備、並びに雨水貯留浸透施設の設置を進めている。	川崎調整池築造工事に着手し、地盤調査を実施し、軟弱地盤対策や地盤改良、取水堰及び導水渠の掘削、築堤の盛り土等を行なった。また、地下貯留施設2箇所、浸透井戸2箇所の浚渫のほか、調整池7箇所の草刈りを実施したことにより、施設の適正な機能を確保した。	雨水関連事業
取組②	污水管渠整備延長 (累計km)	市街化調整区域における公共下水道未整備地区でアンケートを実施したところ、公共下水道による生活排水処理を求める声が多かったことから、計画的に公共下水道(污水)整備を進めている。	市街化調整区域の污水管未普及対策として、大井・苗間において615m、駒林において824m、川崎において83mの公共下水道(污水)整備を実施した。これにより普及率の向上と、公共用水域の水質保全が図られた。	下水道施設管理・整備事業(污水)
取組③	経費回収率	安定的な下水道事業を継続するためには、運営基盤を強化する必要がある。経費の削減を図る一方で、下水道収益の根幹である下水道使用料の水準及び体系が適正であるかを調査・検討していく。	物価高騰の影響を受け、各種費用が増額する一方、下水道使用料は大型マンションへの入居及び法人大口利用者の下水使用量の増加により、下水道使用料は令和5年度と比べ増額となり、経費回収率は100%を超えることができた。	下水道事業管理等事務
取組④				
取組⑤				

5. 評価

		評価
指標の達成状況	順調	近年の異常気象による集中豪雨や、大型化する台風に伴う大雨により、本市においても住家への浸水や道路冠水などの都市型浸水被害が発生していることから、浸水被害の軽減を図るため、雨水流出抑制に効果的な地域に調整池等の整備、及び雨水貯留浸透施設の設置を積極的に進めている。整備事業の推進により、浸水被害については一定の軽減が図られていると認識しているが、降雨量は想定量を大きく上回ることもあり、浸水被害を完全に防止することは難しい状況である。また、経年により老朽化した施設や汚泥等が堆積した施設もあることから、適切な維持管理についても求められている。こうした状況を踏まえ、将来構想の重点プロジェクトに掲げられている「強靱なまちづくりプロジェクト」による“市民が安心して暮らせる環境をつくる”ため、既存施設の適切な維持管理を徹底するとともに、雨水貯留浸透施設の設置に取り組むことにより、確保する雨水流出抑制量の増加を図っている。なお、雨水貯留浸透施設については、積極的な設置に注力しており、将来構想の目標値を早期に達成するよう努めている。令和6年度以降についても既存の雨水貯留施設の設置効果を検証しながら、川崎及び元福岡地区の浸水被害の軽減を図るため、川崎地区において調整池築造工事を進めるなど、各種財政支援制度を積極的に活用してハード対策を継続しつつ、雨水監視体制等のソフト対策についても充実を図るとともに、国、県及び近隣自治体との連携による都市型浸水被害対策を推進する。事業経営について、経営の健全化を示す指数は問題がない数値ではあるが、経費削減を継続し安定的な経営管理に努めていく。
行政資源の活用	適切	
取組の有効性	有効	
施策の効果	大きな効果が得られている	